

4 次交代群 A_4 のリー微分代数について

三 川 敦

Abstract

F を標数 0 の体, G を群とする. 群代数 FG にブラケット積 $[f, g] = fg - gf$ を入れてできるリー代数 $[FG]$ の微分代数 (FG のリー微分代数という) $\text{Der}_F [FG]$ と, 群代数 FG の結合代数としての微分代数 $\text{Der}_F FG$ の 2 つの微分代数を考えることができる. この論文では, 位数 12 の 4 次交代群 $G = A_4$ の場合に, リー微分代数についての考察を行う.

1 Introduction

F を標数 0 の体とし, A を F 上の結合代数とする. $A = F[x], F[x, x^{-1}]$ に対して, 微分代数 $\text{Der}_F A$ はそれぞれ古典的 Witt 代数, centerless Virasoro 代数として良く知られているリー代数となる. その一般化も色々され ([5],[12]), さらにその自己同型群なども良く調べられている ([6],[7]). また, [3] では, A が群代数の場合が調べられている. ブラケット積 $[x, y] = xy - yx$ により A をリー代数と考えたものを $[A]$ と表すとき, $[A]$ のリー代数としての微分 (リー微分) 全体 $\text{Der}_F [A]$ も考えることができるが, [8] では, 位数 6 の二面体群 $G = D_3$ の場合, [9] では, 位数 8 の二面体群 $G = D_4$ の場合, [10] では, 位数 10 の二面体群 $G = D_5$ の場合, [11] では, 位数 8 の 4 元数群 Q_4 の場合をそれぞれ調べ, $\text{Der}_F FG$ が $\text{Der}_F [FG]$ の直和因子になっていることが分かった. この論文では, 位数 12 の 4 次交代群 $G = A_4$ の場合のリー微分代数 $\text{Der}_F [FG]$ について考察を行う.

2 Preliminaries

この論文における記号は [8,9,10,11] のものを使うが、読者の便宜を図り、必要な記号について説明をする。

標数 0 の体 F に対して、 A を F 上の結合代数、 L を F 上のリー代数とする。 A に対して、新しい積 $[a, b] = a \cdot b - b \cdot a$ (\cdot は A における積) による代数を $[A]$ で表す (これは F 上のリー代数になる ([4, p.6])). F の元を成分にもつ n 次の正方行列全体 $M(n, F)$ から得られるリー代数を $gl(n, F) = [M(n, F)]$ で表し、一般線形リー代数といい、トレースが 0 の n 次の正方行列全体から得られるリー代数を $sl(n, F)$ で表し、特殊線形リー代数という。また、有限群 G に対して、その元を基底とする F 上のベクトル空間に、 G の積を拡張したものを考えて得られる結合代数を群代数といい、 FG とかく。

結合代数 A の任意の元 $x, y \in A$ に対して

$$\delta(xy) = \delta(x)y + x\delta(y)$$

を満たす A の線形写像 δ を A の微分といい、その全体を $\text{Der}_F A$ とかく。そして、 F 上のリー代数 L の線形写像 δ で L の任意の元 $x, y \in L$ に対して

$$\delta([x, y]) = [\delta(x), y] + [x, \delta(y)]$$

が成り立つものを L の微分といい、その全体も $\text{Der}_F L$ とかく。よって、結合代数 A に対しては、 $\text{Der}_F A$ の元と $\text{Der}_F [A]$ の元である 2 種類の微分を考えることができる。このとき、 $\text{Der}_F [A]$ の元を A のリー微分という。また、 $L^2 = \text{sp}\{[x, y] \mid x, y \in L\}$ 、 $Z(L) = \{x \in L \mid \text{任意の } y \in L \text{ に対して } [x, y] = 0\}$ を、それぞれ L の導来イデアル、 L の中心といい、ともにリー代数になる。

3 The case of the Alternating group A_4 of order 12

4 次の置換 $1 \rightarrow i_1, 2 \rightarrow i_2, 3 \rightarrow i_3, 4 \rightarrow i_4$ を $p(i_1 i_2 i_3 i_4)$ と略記する。このとき、4 次交代群の各元は $A_4 = \{e, p(1342), p(1423), p(3241), p(4213), p(2431), p(4132), p(2314), p(3124), p(2143), p(3412), p(4321)\}$ となる。ここで、 $e = p(1234)$ は単

位元である。この A_4 からできる群代数を以下 $A = FA_4$ とかく。

$L = [A]$ の基底 $A_4 = \{e, p(1342), p(1423), p(3241), p(4213), p(2431), p(4132), p(2314), p(3124), p(2143), p(3412), p(4321)\}$ のブラケット積は ($[x, x] = 0, [y, x] = -[x, y], [e, x] = 0$ を除いて), 次の 55 = ${}_{11}C_2$ 種類である。

$$\begin{aligned}
[p(1342), p(1423)] &= p(1234) - p(1234) = 0, \\
[p(1342), p(3241)] &= p(4321) - p(3412), \\
[p(1342), p(4213)] &= p(2314) - p(4132), \\
[p(1342), p(2431)] &= p(3241) - p(2314), \\
[p(1342), p(4132)] &= p(2143) - p(4321), \\
[p(1342), p(2314)] &= p(3412) - p(2143), \\
[p(1342), p(3124)] &= p(4132) - p(3241), \\
[p(1342), p(2143)] &= p(3124) - p(2431), \\
[p(1342), p(3412)] &= p(4213) - p(3124), \\
[p(1342), p(4321)] &= p(2431) - p(4213); \\
[p(1423), p(3241)] &= p(2431) - p(3124), \\
[p(1423), p(4213)] &= p(3412) - p(4321), \\
[p(1423), p(2431)] &= p(4321) - p(2143), \\
[p(1423), p(4132)] &= p(3124) - p(4213), \\
[p(1423), p(2314)] &= p(4213) - p(2431), \\
[p(1423), p(3124)] &= p(2143) - p(3412), \\
[p(1423), p(2143)] &= p(4132) - p(2314), \\
[p(1423), p(3412)] &= p(2314) - p(3241), \\
[p(1423), p(4321)] &= p(3241) - p(4132); \\
[p(3241), p(4213)] &= p(1234) - p(1234) = 0, \\
[p(3241), p(2431)] &= p(2143) - p(3412), \\
[p(3241), p(4132)] &= p(1342) - p(3124), \\
[p(3241), p(2314)] &= p(2431) - p(1342), \\
[p(3241), p(3124)] &= p(4321) - p(2143), \\
[p(3241), p(2143)] &= p(2314) - p(4132), \\
[p(3241), p(3412)] &= p(4132) - p(1423), \\
[p(3241), p(4321)] &= p(1423) - p(2314); \\
[p(4213), p(2431)] &= p(2314) - p(1423), \\
[p(4213), p(4132)] &= p(3412) - p(2143), \\
[p(4213), p(2314)] &= p(2143) - p(4321), \\
[p(4213), p(3124)] &= p(1423) - p(4132), \\
[p(4213), p(2143)] &= p(2431) - p(3124), \\
[p(4213), p(3412)] &= p(1342) - p(2431), \\
[p(4213), p(4321)] &= p(3124) - p(1342);
\end{aligned}$$

4 次交代群 A_4 のリー微分代数について

$$\begin{aligned}
 [p(2431), p(4132)] &= p(1234) - p(1234) = 0, \\
 [p(2431), p(2314)] &= p(4321) - p(3412), \\
 [p(2431), p(3124)] &= p(3241) - p(1423), \\
 [p(2431), p(2143)] &= p(4213) - p(1342), \\
 [p(2431), p(3412)] &= p(3124) - p(4213), \\
 [p(2431), p(4321)] &= p(1342) - p(3124); \\
 [p(4132), p(2314)] &= p(1342) - p(4213), \\
 [p(4132), p(3124)] &= p(3412) - p(4321), \\
 [p(4132), p(2143)] &= p(1423) - p(3241), \\
 [p(4132), p(3412)] &= p(3241) - p(2314), \\
 [p(4132), p(4321)] &= p(2314) - p(1423); \\
 [p(2314), p(3124)] &= p(1234) - p(1234) = 0, \\
 [p(2314), p(2143)] &= p(3241) - p(1423), \\
 [p(2314), p(3412)] &= p(1423) - p(4132), \\
 [p(2314), p(4321)] &= p(4132) - p(3241); \\
 [p(3124), p(2143)] &= p(1342) - p(4213), \\
 [p(3124), p(3412)] &= p(2431) - p(1342), \\
 [p(3124), p(4321)] &= p(4213) - p(2431); \\
 [p(2143), p(3412)] &= p(4321) - p(4321) = 0, \\
 [p(2143), p(4321)] &= p(3412) - p(3412) = 0; \\
 [p(3412), p(4321)] &= p(2143) - p(2143) = 0.
 \end{aligned}$$

よって、簡単な計算により、 L の中心 $Z(L)$ は

$$\begin{aligned}
 Z(L) = \text{sp}\{ &e, p(1342) + p(2431) + p(3124) + p(4213), \\
 &p(1423) + p(2314) + p(3241) + p(4132), \\
 &p(2143) + p(3412) + p(4321)\}
 \end{aligned}$$

で、 L の導来イデアル L^2 は

$$\begin{aligned}
 L^2 = \text{sp}\{ &p(1342) - p(2431), p(1342) - p(4213), \\
 &p(1423) - p(3241), p(1423) - p(4132), \\
 &p(2143) - p(4321), p(2314) - p(3241), \\
 &p(3124) - p(4213), p(3412) - p(4321)\}
 \end{aligned}$$

であることがわかる。したがって、 $L = L^2 \oplus Z(L)$ が成り立つ。次に、

$$H = \text{sp}\{p(2143) - p(4321), p(3412) - p(4321)\}$$

とおくと、 H は L^2 の可換部分リー代数である。 H 上の 1 次形式 α, β を次で定義する。

$$\alpha(p(2143) - p(4321)) = 2, \quad \alpha(p(3412) - p(4321)) = 4,$$

$$\beta(p(2143) - p(4321)) = 2, \quad \beta(p(3412) - p(4321)) = -2.$$

このとき、 $M = L^2$ をブラケット積により H -加群と考えると、次のように固有空間に分解できる。

$$\begin{aligned} M &= H \oplus M(\alpha) \oplus M(\beta) \oplus M(\alpha + \beta) \\ &\quad \oplus M(-\alpha) \oplus M(-\beta) \oplus M(-\alpha - \beta) \end{aligned}$$

ここで、

$$M(0) = sp\{p(2143) - p(4321), p(3412) - p(4321)\},$$

$$M(\alpha) = sp\{p(1423) - p(2314) + p(3241) - p(4132)\},$$

$$M(\beta) = sp\{p(1423) + p(2314) - p(3241) - p(4132)\},$$

$$M(\alpha + \beta) = sp\{p(1342) + p(2431) - p(3124) - p(4213)\},$$

$$M(-\alpha) = sp\{p(1342) - p(2431) - p(3124) + p(4213)\},$$

$$M(-\beta) = sp\{p(1342) - p(2431) + p(3124) - p(4213)\},$$

$$M(-\alpha - \beta) = sp\{p(1423) - p(2314) - p(3241) + p(4132)\}$$

である。したがって、

$$L^2 = M \cong sl(3, F)$$

となることが分かる。よって、[9, 定理 3.1] と同様にして次の定理が成り立つことがわかる。

定理 3.1 $G = A_4$, $A = FG$ とすると、次の同型が成り立つ。

$$\text{Der}_F A = \text{Inn}_F A \cong A/Z(A),$$

$$\text{Der}_F[A] \cong \text{Der}_F A \oplus gl(4, F).$$

よって、 F が代数的閉体の場合は、

$$\text{Der}_F A = \text{Inn}_F A \cong sl(3, F),$$

$$\text{Der}_F[A] \cong sl(3, F) \oplus gl(4, F).$$

4次交代群 A_4 のリー微分代数について

ここで, $\text{Inn}_F A$ の記号について説明をしておく. $x, y \in A$ に対して,

$$\text{ad } x(y) = xy - yx$$

とすると, $\text{ad } x$ は A の微分であり, この形の微分を A の内部微分といい, その全体を $\text{Inn}_F A$ とかく. [2, p.490] より, 有限群から出来る群代数の微分は内部微分に限るので, $\text{Der}_F A = \text{Inn}_F A$ が成り立つ.

References

- [1] C.P. Milies and S.K. Sehgal *An Introduction to Group Rings*, Kluwer Academic Publishers, 2002
- [2] C.W. Curtis and I. Reiner *Representation Theory of Finite Groups and Associative Algebras*, Interscience, New York, 1962
- [3] T. Ikeda and N. Kawamoto *On derivation algebras of group algebras*, Nonassociative Algebras and its Applications, 188-192, Kluwer Acad. Publ., Dordrecht, 1994
- [4] N. Jacobson *Lie Algebras*, Interscience, New York, 1962
- [5] N. Kawamoto *Generalizations of Witt algebras over a field of characteristic zero*, Hiroshima Math. J., **16** (1986), 417-426
- [6] ——— *On G-graded automorphisms of generalized Witt algebras*, Contemp. Math., **184** (1995), 225-230
- [7] N. Kawamoto, A. Mitsukawa, K-B. Nam and M-O. Wang *The automorphisms of generalized Witt type Lie algebras*, J. Lie Theory, **13** (2003), 573-578
- [8] A. Mitsukawa 群代数のリー微分代数について, 福山大学経済学論集, **30**(2006), 29-34
- [9] ——— 群代数のリー微分代数について (2), 福山大学経済学論集, **32**(2007), 133-137
- [10] ——— 二面体群 D_5 のリー微分代数について, 福山大学経済学論集, **33** (2008), 221-228
- [11] ——— 4元数群 Q_4 のリー微分代数について, 福山大学経済学論集, **34** (2009), 87-90
- [12] K-B. Nam *Generalized W and H type Lie algebras*, Algebra Colloq., **6** (1999), 329-340